

令和7年度第1回ヤクシカWG合同会議における主な意見・助言等に対する今後の取組方向

参考資料2

課 題		質問項目	主 な 意 見・助 言 等	関 係 機 関	回 答 等
議事1	資料1－1 (鹿児島県)	ヤクシカの生息状況	資料1-1「令和6年度のヤクシカの生息状況について」は、令和6年第2回ヤクシカWGで提示された資料の確定値であるか。(矢原委員長)	◎鹿児島県	令和6年第2回ヤクシカWGで提示された資料の確定値になる。
	資料1－2 (林野庁)	ヤクシカの生息状況	令和6年度の合計捕獲数が減少している点について、今後の推移を見ないと正確な判断はできないものの、全体として増加し続けている状況ではないという認識でよい。(矢原委員長)	◎林野庁	令和7年度も引き続きヤクシカの捕獲を継続する。
議事2	資料2－1 (屋久島町)	SFTSと捕獲者体制	SFTSに関して、タヌキの陽性率と人患者数の関連が報告されており、継続調査が必要である。また、ダニ媒介感染症が観光の風評被害をもたらす懸念があるため、ガイドへの周知も重要である。(鈴木委員)	◎屋久島町	引き続き患者数の把握等調査を行う。風評被害対策として、関係機関やガイド等へと連携し正確な情報発信に努める。
			狩猟者の高齢化が進む中、専従捕獲者の確保を検討すべき時期である。環境省には、その高度な捕獲技術体制と現場での実施方法について検討を求める。(鈴木委員)	◎環境省	捕獲技術・体制の情報供給については、今後もヤクシカWGなどで共有していく。専従捕獲者の確保、体制構築については、鹿児島県、屋久島町及び猟友会と協力し行っていく。
		タヌキの被害とSFTS感染リスク	被害金額におけるタヌキの被害状況はどのように把握しているのか？(手塚委員)	◎屋久島町	屋久島町職員が農家への聞き取りと現場確認を行い、被害面積から金額を推定している。
			令和6年度も被害金額が増加しているが、農家は被害増加に対しどのような印象を持っているか？(手塚委員)	◎屋久島町	農家からもタヌキが増加しているとの声があり、農産物被害を懸念している。
			SFTSはダニ媒介感染症であり、タヌキからも直接感染する可能性がある。捕獲従事者の衛生管理の普及啓発も重要である。(鈴木委員)	◎屋久島町	各猟友会と連携し普及啓発を行う。
		森林の実りと鳥獣被害の関係	サルが食べるタブノキやアコウの実について、イチモンジハムシが多発し実りが悪い地域もある。その因果関係を環境省で調べてほしい。(荒田委員)	◎環境省	現状把握も含め、京都大学等の研究機関と相談を行いたい。
			資料2(資料2－1～2－4)の被害額について、サルやシカの被害は特定の集落や地域に集中しているのか、それとも島全体に広がっている印象なのか？(杉浦委員)	◎屋久島町	サルの被害は昨年8月末の台風10号以降、特定の集落に限定されず島内全域から確認されており、シカの被害も全島的な発生である。

課 題		質問項目	主 な 意 見・助 言 等	関 係 機 関	回 答 等
	資料 2－1 2－2 2－3 2－4 (屋久島町)	鳥獣被害の範囲と要因			
			西部地域でモニタリングしているが、鳥獣被害につながるようなデータは含まれているのか？（矢原委員長）	◎環境省	今後の検討の参考にさせていただく。
			ポイント調査なので、森全体を把握するには積み上げが必要である。（湯本委員）		
	資料 2－7 (鹿児島県)	シカの年齢査定	衛星データなどで葉の量などから被害状況を把握できる可能性があると考える。（矢原委員長）		
			シカ年齢構成について、屋久島ではセメント質の年輪が信頼できないため、今後はセメント質の年輪、歯の摩耗、歯の硬質硬化の3つを突き合わせ、年齢査定の機会を検討してほしい。（鈴木委員）	◎鹿児島県	年齢査定手法について、鈴木委員との打合せの場の設定については調整させていただきたい。
			糞粒法による個体数推定の捕獲シミュレーションでは目標が毎年変動し、計画遂行に支障をきたす可能性がある。年ごとのシミュレーション目標の管理計画上の位置づけはどのようになっているのか。（濱崎委員）	◎鹿児島県	管理計画上の当面の捕獲目標としては「令和15年度に令和5年度の目標個体数を半減することを念頭にした計画的な捕獲」としており、それに必要な年度ごとの捕獲頭数をシミュレーションにより試算したうえで、計画捕獲、狩猟及び有害鳥獣捕獲の合計で屋久島全体においてその捕獲頭数を確保できたかどうかの評価に活用する流れになっている。
	資料 5－2 (林野庁)	アブラギリの分布	シミュレーション結果の変動が大きいと誤解を生むため、注釈付き説明を提案。階層ベイズモデル導入や複数の指標（糞粒法、糞塊密度、CPUE、メッシュごとの捕獲数）を用いた捕獲目標設定精度の向上に取り組んでほしい。（濱崎委員）	◎鹿児島県	シミュレーションによる捕獲頭数の試算結果については、その精度等について注釈を付ける。捕獲頭数の設定または評価に当たっては、複数の手法・指標の活用を検討してまいりたい。
			西部地域の世界遺産地域内でアブラギリが著しく増加しており、生態系管理上の問題がある。環境省の取り組み教えてほしい。（手塚委員）	◎環境省	西部地域に多くのアブラギリがあると把握しているが、全体対策は困難であるため、まずは植生保護柵内の駆除を優先している。
			西部地域の県有林が広範囲であり、県有林内においても対策を具体的に戦術的に考えるべきではないか。（手塚委員）	◎鹿児島県	県有林内や県道沿いに多くのアブラギリが存在し、根絶に向けた効果的な対策は困難と感じられた。県道整備に関連する作業等の中で可能な範囲で駆除するなど、可能な取組について県屋久島事務所とも相談する。
			西部地域はシカの密度が高く裸地化しているため、アブラギリが繁殖しやすい状況である。世界遺産地域内なので、もっと力を入れて実施すべきである。アブラギリは重要な指標となる樹木である。（手塚委員）	◎環境省 ◎鹿児島県 ◎屋久島町 ◎林野庁	ヤクシカの密度が高いほど多く、伐採後の対策を誤るとむしろ増加する可能性がある。パイオニア種であり永続的に増え続けることはないため、西部の森林全体の遷移の中で、現実的な低密度化の目標を立て、全てなくす必要はないと考える。（矢原委員長）

課 題		質問項目	主 な 意 見・助 言 等	関 係 機 関	回 答 等
議 事 5	資料 5－3 (環境省)	外来生物等の増減や分布変化	ガジュマルやアコウの実は在来種か。また、それらを餌とするハムシは外来種か。在来種であれば、これまでどのようにコントロールされてきたのか。(湯本委員) イチモンジハムシは20年前に屋久島に移入し、主にクワ科植物を食草とする。屋久島中に蔓延している。ヤシゾウムシ、バナナゾウムシ、ソテツにつくシジミチョウもあり、昆虫被害は多方面で増加傾向にある。(荒田委員) ここは世界遺産内なので、アコウ、ガジュマルは自然林の重要な要素であり、サルや果物を食べる小型鳥類にとっても重要である。注意が必要だと感じた。(湯本委員)	◎環境省	今後の検討の参考にさせていただく。
			日本におけるイチモンジハムシとオキナワイチモンジハムシの分布状況、特に屋久島での両種の存在と、イチモンジハムシが以前からいたのか。(矢原委員長、松田委員) 屋久島には2種のイチモンジハムシが存在する。また、近年増加した可能性が高い。オキナワイチモンジハムシは新たに侵入した種である。さらなる調査が必要であり、環境省にも検討をお願いする。(荒田委員)	◎環境省	今後の検討の参考にさせていただく。
		タヌキの生態系への影響	タヌキは1992年の初確認以降カメラモニタリングで大川林道高所でも確認されていた。ネコも同林道1,000m付近で問題視された経緯がある。当時の環境省資料をレビューし、1992年以降の経緯を次回委員会でまとめるべきである。(矢原委員長)	◎環境省	今後の検討の参考にさせていただく。
			2009年以降ヤクシカ対策が優先されタヌキに手が回らなかったが、今後は農業被害が出て全島に広がるタヌキの現実的な密度を検討する。まずはこれまでの経緯整理が第一歩である。(矢原委員長)	◎環境省 ◎鹿児島県	今後の検討の参考にさせていただく。【環境省】関係機関が連携を図りながら、屋久島におけるタヌキの生息状況や農業被害、生態系被害等に関する情報収集に努める。【鹿児島県】
			タヌキは生態系影響だけでなく感染症影響もあり、ワンヘルスの視点から検討すべきである。ネコもSFTSが問題となっている。ノネコの問題や地域ネコの活動も含め幅広く考えるべきである。(鈴木委員)	◎環境省 ◎鹿児島県 ◎屋久島町	今後の検討の参考にさせていただく。【環境省】【屋久島町】関係機関が連携を図りながら、屋久島におけるタヌキやノネコの生息状況に関する情報収集に努める。【鹿児島県】
			タヌキの分布レビューやGPS記録はあるが、生態系へのインパクト情報が不足しており、対策検討のため評価手法(胃内容物調査、DNA分析など)について教えてほしい。(環境省) 屋久島のタヌキ生態系影響評価研究を公募し、国内外の専門家に研究機会を提供することが有効である。(矢原委員長) タヌキの種子散布に関する過去研究があり、屋久島でもアブラギリ等の種子が糞から見つかるなど、種子散布者としての役割が興味深い。ため糞により調査も比較的容易である。(湯本委員、手塚委員)	◎環境省	今後の検討の参考にさせていただく。

課 題		質問項目	主 な 意 見・助 言 等	関 係 機 関	回 答 等
議事 6	資料ナシ	国立公園計画の見直し	20年間未実施の国立公園計画見直しについて、低地照葉樹林の重要性や世界遺産登録の可能性を含めた進捗を教えてください。（手塚委員）	◎環境省	公園計画（屋久島部分）は20年間未変更であり、低地照葉樹林の重要性や希少種確認等を踏まえ区域拡張や地種区分変更などの見直しを行う予定。
				◎環境省	昨年度から自然環境調査を実施し、国有林や海域の担当者らと意見交換を進める。科学委員会等にも進捗を報告し意見を求める予定。
				◎環境省	林野庁の森林管理局や森林管理署とは既に相談を行っており、具体的なエリア案を提示して協議を進めていきたい。